

逗子開成中学校高等学校 創立 110 周年記念式典

学校長 式辞

本日は、逗子開成中学校・高等学校の創立 110 周年記念式典にあたり、逗子市長をはじめ、多数のご来校いただき誠にありがとうございます。

こうして本校が 110 周年を迎えることができるのも、ひとえに皆様の日頃からのお力添えのお蔭であることから感謝申し上げます。

また、本日の式典には、生徒教職員が一緒になってお祝いしようということで、中 1 から高 3 までの生員が参加しています。これには、これからの本校の歴史を作っていく主体となるのは、生徒達であるといひも込められています。

さて、逗子開成は、1903 年（明治 36 年）4 月 18 日、東京の開成中学校の分校「私立第二開成学校」と誕生しました。創立者は当時開成中学校の校長をしていた田邊新之助先生です。

逗子開成の歴史を振り返ると、激動の時代であった 20 世紀と学校の歴史がほぼ重なり、天災や恐慌、戦争故など多くの試練、そして何度も存続の危機を乗り越えてきています。それは今まで本校に携わってきた、教職員、経営者、保護者や校友の皆さんの並々ならぬご尽力があったからこそと、あらためて感謝の意したいと思います。

この 110 年の歴史の中で、現在本校で行われている教育の原点となったのは、元理事長である徳間康快による学校改革でした。

1984 年に理事長に就任した徳間先生は、学校方針を進学校と明確にし、募集を停止していた中学校を再ましました。また、地の利を生かした海洋教育、映像教育などの情操教育、そして海外研修もスタートさせ、知・体のバランスのとれた生徒の育成を目指しました。私たちは、「志、雲より高く」「逗子開成を日本一のにする」という言葉で何度も激励されたことを覚えています。

残念ながら、徳間先生は創立 100 周年を前に 2000 年 9 月に逝去されましたが、その後も学校改革が進めましました。

教育環境の面では、校舎の全面改築と耐震化、プールと体育館の改修、学校と家庭を結ぶ CP ネットワー構築などを行い、教育内容の面では、選抜クラス、達成度別クラスの設置、完全中高 6 か年一貫教育の実施 3NZ 研修、高 2 アジア研究旅行の実施、留学制度の確立などを行い現在に至っています。この間、進学も着実に伸び、私立男子校として一定の評価を頂けるようになったと自負しております。

「飲水思源」という古い中国の言葉があります。これは、「水を飲むときには、その井戸を掘った人のこ思いなさい」という意味だそうです。

子開成のために、多くの先人に井戸を掘って頂きました。その井戸からは伝統という水が湧き続けていま

ような教育を求めていかなければなりません。

各教科では新しいシラバスの作成を行い、現状の生徒にあった授業内容や指導方法を研究しています。また、年度より中学生全員に学習の手引きを配布し、各教科の学習の仕方や、各自が目標を持って自主的な勉強をよう指導しています。

次に、最近の IT 技術の発展は目覚ましいものがあり、教育の現場でも指導方法などで変化が起きつつありますが、昨年は、全教職員に iPad を配布し会議などでの利用を始めました。各教室には、順次プロジェクトを設置しており、IT 技術を授業にどのように利用するのが効果的なのか研究中です。

また、国際交流については、今後も活発に行い発展させていく予定です。

の 3 月には、NZ のランギトト・カレッジと姉妹校提携を結び、短期留学が可能となりました。2010 年国金浦外国語高等学校に続く 2 校目の姉妹校です。

これから学校を卒業していく生徒達は、益々活躍の場が世界中にひろがっていくはずですが、国際的な視野に着け、少々のことではへこたれないタフさも必要です。そのためにも、しっかりした教養をもち心身と健全な青年に育てたいと思います。

今日のこの創立記念日を、逗子開成の次の 10 年、20 年に向けてさらなる伝統を創造する出発の日として、学術的精神である「開物成務」を胸に秘め、生徒教職員一同決意を新たに、学校生活を送っていきたくとします。

ここにお集まりの皆様には、今までにもまして今後も益々のご支援、ご指導をお願い致しまして、校長のと致します。本日はどうもありがとうございました。

2013 年 4 月 18

逗子開成中学校高等学

校長 高橋